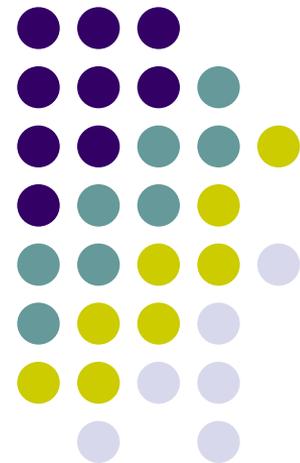
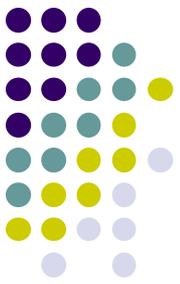


医師国家試験への CBT導入に関する研究



高木 康





これまでの研究

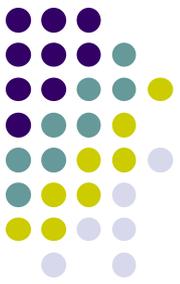
- 諸外国での医師国家試験の視察
 - ✓ 米国、台湾、インドネシア
 - ✓ カナダ、タイ、韓国
 - ✓ 学力試験（CBT、冊子）、OSCEの併用
- コンピュータを利用した試験
 - ✓ CBT
 - ✓ マルチメディアを活用したCBT
 - ✓ 後戻りできない機能を活用したCBT
- 国家試験への応用・導入

今年度の研究計画



1. コンピュータを用いた試験（CBT）の国家試験への応用の優位性の検討
 - ① **CBTの長所と短所についての再整理**：CBTの長所と短所について再度確認・整理する。特に、CBTのMCQ出題における冊子形式にはない長所と短所について整理を行う。
 - ② **コンピュータの特性を利用した出題の検討**：すでに動画と音声を組み込むことで、身体診察の技能的な側面からの出題と評価が可能なが確認されているが、ページングシステムによる画像診断での臨床現場に即した診断、臨床実習時にCT/MRI画像で病変部と疾病診断を行う上でのCBTへの応用の可能性の検討を行う。
 - ③ **医師国家試験へのCBTの導入の問題点の検討**：現行の医師国家試験は年に1回、約9,000人の受験生で行っている。このような多数の受験生で単一回でのCBTの施行における問題点とその解決法を検討する。この際には試験問題作成、試験問題配布方法（インターネット方式か電子媒体試用かなど）、採点、判定基準、試験場とPCの整備、など共用試験での実績を詳細に検討し、CBT独自の問題点を抽出し、これらに対する解決法についても検討する。
 - ④ **医師国家試験改善委員会への資料の提示**：平成26年度の医師国家試験改善検討部会でも、検討項目の1つとしてコンピュータの特性を活用した出題手法が継続検討事項とされており、平成30年度の医師国家試験改善に向けてのCBT導入の有用性・問題点について提言できる資料を作成する。

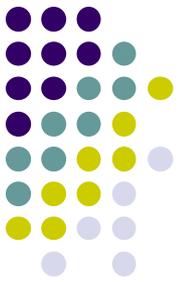
今年度の研究計画(2)



2. 外国医師等の医師国家試験受験資格試験のCBT導入

- ① **共用試験の内容の検討と資格試験での有用性の検討**：モデル・コア・カリキュラムに準じて出題されているCBT問題の資格試験での試験内容について検討する。
- ② **資格試験での出題内容の検討**：資格試験で問う試験内容について検討する。共用試験の内容か、あるいはこれに臨床実習の内容を加味した卒業試験レベルとするかを検討する。
- ③ **特異性・有用性の高いCBT問題の試作**：動画や音声を組み込んだCBT問題、ページング画像を組み込んだCBT問題などマルチメディアを利用したCBT問題、あるいはその他にCBTであることから可能な特異的に出題可能な内容などを試作する。
- ④ **パイロットアドバンスCBT問題の評価**：研究員の所属する大学で、アドバンスCBT試作問題を医学生を対象として実施し、試作問題に関するアンケートを行い、これの長所や短所について検討する。
- ⑤ **試作CBTとOSCEとの関係の検討**：臨床実習前あるいは卒業前にOSCEを実施している医学部生を対象として、試作CBTの評価をOSCE評価と比較して行い、技能や態度評価についてのアドバンスCBTの有用性について検討する。

今年度の研究計画



1. コンピュータの特性を利用した出題の検討

- ① 動画と音声を組み込むことで、身体診察の技能的な側面からの出題と評価
- ② ページングシステムによる画像診断での臨床現場に即した診断、臨床実習時にCT/MRI画像で病変部と疾病診断
- ③ 「後戻りできない機能」(CATO)を利用した臨床推論能力の評価

2. 外国医師等の医師国家試験受験資格試験のCBT導入

- ① 資格試験で問う試験内容についての検討：共用試験の内容か、あるいはこれに臨床実習の内容を加味した卒業試験レベル
- ② 特異性・有用性の高いCBT問題の試作：動画や音声を組み込んだCBT問題、ページング画像を組み込んだCBT問題などマルチメディアを利用したCBT問題などの試作
- ③ パイロットアドバンスCBT問題の評価：班員の所属する大学で、アドバンスCBT試作問題を医学生を対象として実施し、試作問題に関するアンケートを行い、これの長所や短所について検討
- ④ 試作CBTとOSCEとの関係の検討：臨床実習前あるいは卒業前にOSCEを実施している医学部生を対象として、試作CBTの評価をOSCE評価と比較して行い、技能や態度評価についてのアドバンスCBTの有用性についての検討

今年度の研究計画



1. コンピュータの特性を利用した問題

- ① マルチメディアを活用としたCBT問題
 - 動画（徒手筋力試験、神経疾患）
 - 音声（循環器疾患、呼吸器疾患）
- ② ページングシステムを活用したCBT問題
 - 中枢疾患（脳梗塞、脳出血など）
- ③ 「後戻りできない機能」（CATO）を利用した問題
 - 共用試験Q問題で①と②では出題できない領域

2. 外国医師等の医師国家試験受験資格試験のCBT導入

- ① コンピュータの特性を利用した問題の作成（全30題？）
 - 従来のMCQ：15～20題
 - マルチメディアを活用したMCQ：5～10題
 - ページングを活用したMCQ：2～5題
 - 後戻りできない機能を活用した問題：2～5題
- ② パイロットCBT問題の評価：
 - 昭和大学、自治医大、新潟大学、順天堂大学？
 - 学生からのアンケート・評価
- ③ 調査でのトライアル（2018年？）